

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト 中間とりまとめ

平成26年12月から6月まで、勉強会（7回）やシンポジウム（1回）を重ね、多くの有識者と議論しながら方向性を検討。

勉強会の議論を踏まえ、講師や参加者（18名）、環境省プロジェクトチームによるグループで執筆。

現在、ホームページにて賛同者募集中。

<<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/supporter.html>>

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト勉強会

12/19 (金) 第1回勉強会 (済み)

テーマ：キックオフ、森里川海をつながり再生

講師：畠山 重篤氏 (NPO法人森は海の恋人理事長)
田中 克氏 (舞根森里海研究所所長、
京都大学名誉教授)

2/9 (月) 第2回勉強会 (済み)

テーマ：「川」「海」(他とのつながりを視野に入れて)

講師：木村 尚氏 (海洋専門家)
海部 健三氏 (中央大学助教)

3/6 (金) 第3回勉強会 (済み)

テーマ：「森」「里」(他とのつながりを視野に入れて)

講師：速水 亨氏 (速水林業代表)
白川 勝信氏 (芸北 高原の自然館主任学芸員)

3/23 (月) 第4回勉強会 (済み)

テーマ：災害と「森里川海」
とりまとめに向けた議論

講師：関 健志氏 ((公財)日本生態系協会事務局長)

5/12 (火) 第5回勉強会 (済み)

テーマ：地方行政の中での「森里川海」、
「森里川海」の経済的な価値、都市と地方

講師：中貝 宗治氏 (豊岡市長)
栗山 浩一氏 (京都大学教授)

5/21 (木) 第6回勉強会 (済み)

テーマ：「森里川海」の恵み - 食と健康

講師：奥田 政行氏 (アルケッチャーノ オーナーシェフ)
阿部 公和氏 (湯野浜温泉 亀や 代表取締役社長)
山澤 清氏 (農事組合法人大日本伝承野菜研究所理事)
本田 学氏 (独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
疾病研究第七部 部長)

5/30 (土) 公開シンポジウム (済み)

テーマ：森里川海を豊かに保ち、恵みを引き出すための新たな仕組み
基調講演：武内 和彦氏 (国連大学上級副学長)

パネリスト等：涌井 史郎氏 (東京都市大学教授、
生物多様性の10年委員会委員長代理)
高木 美保氏 (タレント、芸農人)
中村 文明氏 (多摩川源流研究所 所長)
井上 恭介氏 (NHK報道局チーフ・プロデューサー)
中井 徳太郎 (環境省大臣官房審議官)

6/22 (月) 第7回勉強会

テーマ：中間とりまとめ

6/30 (火) 中間とりまとめの公表

「森里川海」と日本人の暮らし

戦後の日本は、

- 地方から都市への人口移動
- 経済活動が海外からの輸入に依存
- 結果、人々の暮らしは自然から切り離され、「森里川海」の持つ“恵みをもたらす力”が顧みられなくなる

現在の「森里川海」は、

- 開発によりつながりが失われ、
- 人による働きかけが少なくなって荒廃した自然が増え、
- 自然災害の規模や頻度が大きくなっている

そして現在の日本社会は、

- 人口減少・高齢化社会
- 人と人とのつながりが希薄に
- 財政のひっばく

「森里川海」の価値を見直すとき！

「森里川海」の経済的価値

森

森林の生態系サービスの価値は**年間約70兆円**と試算（林野庁、H13）

- ・土砂流出防止
- ・二酸化炭素吸収
- ・水源涵養
- ・水質浄化
- ・洪水緩和等

里

農業・農村の多面的機能の価値は**年間約8兆円**と試算（農林水産省、H13）

- ・洪水防止
- ・河川流量安定
- ・土砂崩壊防止
- ・地下水涵養
- ・やすらぎ等

川

湿原の生態系サービスの価値は**年間約8,391億円～9,711億円**と試算（環境省、H26）

- ・水量調整
- ・水質浄化
- ・二酸化炭素貯蓄
- ・レクリエーション等

海

サンゴ礁の生態系サービスの価値は**年間約2,581億円～3,345億円**、干潟の生態系サービスの価値は**年間約6,103億円**と試算（環境省、H22、H26）

- ・漁業
- ・海岸防護
- ・水質浄化
- ・観光・レクリエーション等

各地域の自然の恵みに支えられ、安全で豊かに暮らせる**都市**

「森里川海」の危機と課題

森

- 木材価格の低下等により、森林資源の活用が進まず、伐採、再植林が十分行われない
- 十分管理が行われない人工林では、水源涵養機能低下、土砂崩れの危険増大
- 二酸化炭素の吸収機能低下

里

- 開発による縮小
- 人の手が入らなくなることによる荒廃
- シカやイノシシなどの増加
- 多くの生き物が絶滅危惧種

川・海

- 開発による氾濫原の湿地帯減少
- 河川構造物による砂礫供給、生き物往来の減少
- 干潟、砂浜の減少
- 海産物の減少

つながりの分断

- 森から海への土砂供給、水量調整の機能の低下
- 宅地が河川・山際に整備されるなどにより、災害リスクが増大

人の関わり

- コミュニティや地域の活力低下
- 恵みを引き出す人の業（わざ）の喪失
- 自然の中で遊ぶ子どもも減少

仕組み上の課題

- 行政の縦割り
- 地域間の連携不足
- 総合的・長期的な視野でのランドデザインの不足

プロジェクトの目標

森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出します。

森里川海が本来持つ力を再生し、恵み（清浄な空気、豊かな水、食料・資材等の恵みを供給する力や自然災害へのしなやかな対応力）を引き出すことのできる社会をつくります。

一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくります。

私たちの暮らしは森里川海の恵みに支えられているだけでなく、日々の暮らし方（消費行動や休暇の過ごし方など）を変えることによって、私たちが森里川海を支えることができます。一人一人がそれを意識して暮らす社会への変革を図ります。

基本原則

人口減少・高齢化社会が進むことを前提

地方創生に貢献

- 自然資本の手入れ（管理）を推進することで雇用が生まれる
- 地域の人をつながりが生まれる

森里川海のある地域だけでなく、国全体で支える

- 森里川海の恵みは、その地域に限定されない。将来世代のためにもみんなを支える必要

縦割りを解消し、関係者間、地域間の一層の連携

- 森里川海をつながりを考え、取組をつなぎ、地域をつないでいく必要

わかりやすく目指す姿を設定し、バックキャストिंगアプローチをとる

- 一つのわかりやすい目標があることで、複数の行政や地域が連携しやすい

別の目的のための取組にも配慮を促す

- 災害対策や農林水産業の推進などの別の目的として行われてきた取組についても、森里川海を豊かに保ち、恵みを引き出すことを前提に。

具体的な取組アイデア - 個別プログラム例 (1) -

森林のメタボ解消・健全化プログラム

日本の森林の蓄積量は過去最大。これを活用し、森林のCO₂吸収機能を高めつつ、森林資源を将来につなぐための事業を実施。

< 具体的な活動例 >

- CO₂吸収源対策に資する間伐、植林等
- 生物多様性を豊かにする森林施業のガイドライン作成・普及
- 生産材や製品の認証取得促進
- 木材の消費行動の適正化推進
- 木材市場の活性化（木造建築の推進など）等



生態系を活用したしなやかな災害対策

国土利用のあり方を人口減少社会にふさわしいものに見直す。森林、河川、農地間の切れ目のない災害対策が重要。

< 具体的な活動例 >

- 地域ごとの土地利用計画の見直し
- 自然の防潮堤ともいえるサンゴ礁に負担をかけない土地利用 等



江戸前などの地域産食材再生のための環境づくり

ウナギやアサリをはじめとする魚介類などを持続的に利用するために、山から川、海につながりを見直し、環境の改善を図る。

< 具体的な活動例 >

- 河川内の生き物の移動を阻害する段差の解消
- 藻場・干潟の再生
- 海域の環境改善のための植林、湿地の再生等
- 「里海」づくり活動の推進



トキやコウノトリなどが舞う国土づくり

トキやコウノトリ、ツル類、猛禽類などの大型鳥類が生息できることを指標にして、国土、地域の環境づくりを促進。

< 具体的な活動例 >

- 多くの生き物が生息できる水田環境づくり
- 生き物にやさしい農業の推進
- 田んぼと水路の生き物の移動を阻害する段差の解消
- 「一村一生物運動」の推進等



具体的な取組アイデア - 個別プログラム例 (2) -

美しい日本の風景再生プログラム

「美しさ」、「心地よさ」も自然の恵みの一つ。圧倒的な雄大さや機能的な美しさは、人の心を育てるだけでなく、観光資源としても重要。

< 具体的な活動例 >

- 北斎などの風景再生
- 雄大な草原の再生
- 視点場の再生・整備 等



森里川海からの産業創造プログラム

自然資本財を活用した新たな産業の創造や、各種産業にとっての魅力的な環境を整備。

< 具体的な活動例 >

- 企業と地域などをマッチングさせる仕組み
- 産業創出のための研究開発の推進

鳥獣等から国土・国民生活を守るプログラム

農林業、生活環境、生態系をおびやかすニホンジカやイノシシなどの鳥獣の必要な捕獲等の対策ができる社会づくりを行う。

< 具体的な活動例 >

- 捕獲をプロとして行う専門的捕獲事業者の育成
- 鳥獣の人間のたんぱく源としての再評価、ジビエの振興 等



森里川海の中で遊ぶ子どもの復活プログラム

子どもたちが、森里川海の中で遊んで自然を身近に感じ、その恵みを知る機会を増やすことにより、森里川海を将来世代につないでいく。

< 具体的な活動例 >

- 川ガキ・山ガキ・海ガキ養成学校開校
- 子どもの農山漁村体験促進
- 身近な川や田んぼの調査 等



森里川海とつながるライフスタイルへの転換

一人一人の消費行動や余暇の時間の過ごし方を考え、転換することで、日々森里川海の恵みを意識し、暮らしを通じて森里川海の管理に貢献する。

< 具体的な活動例 >

- 地域産食材や環境配慮食材の購入促進
- 木材の消費行動の適正化の推進
- エコツーリズム推進
- 森里川海の管理に貢献する2地域居住の推進 等



具体的な取組アイデア - 実現に向けた仕組み -

ボトムアップで取組を進めるための仕組み

関心を持つ人が意見を言うことのできる場を地域ごとに設定し、地域の意見が国の方針に反映される仕組みが必要。

国全体の会議の「森里川海協議会」、地域ごとの会議として「森里川海地域協議会」の設置を提案。幅広い参加を得て、森里川海のあるべき姿や管理の方向性を検討する他、取組の進捗や森里川海の状況の評価を行う。



森里川海協議会イメージ

資金や労力を確保し、みんなで支えるための方策

一人一人の参加意識を高めるために、森里川海の恵みを受けるすべての個人や企業のそれぞれが少額を負担することを提案（例えば、個人であれば一人1日1～2円程度など）。

少額の負担に加えて、趣旨に賛同する個人や企業からは、追加的な負担を受け入れることができる仕組み。

“次世代への貯金・自然へのお賽銭”

また、CSRやナショナルトラスト、利用者負担、ボランティアも併せて推進。

< 実現する仕組みのイメージ図 >

